

 退職者のひとこと



左から、高瀬文化遺産部長、巽副所長、岡村企画調整部長、光谷年代学研究室長、安田埋蔵文化財センター長

保存状態の良さに感激した薬師寺西僧坊跡、初めて担当した平城宮中央区朝堂院東第一堂地区、一人で現場を担当していきなり墨痕鮮やかな木簡に出くわしあせった御前池の現場、などなど走馬燈のようによみがえってきます。

発掘調査をおこなうかたわら、平城宮跡発掘調査部計測修景調査室の一員であった私は平城宮跡をはじめとする遺跡の整備計画立案作業、庭園の実測調査、写真測量などに従事しました。

遺跡の整備計画はものを作る作業です。自分の頭の中でイメージした姿が現実の形となって表れるのですからこんな楽しいことがあるのでしょうか。平城宮跡で私が初めて実施設計に近い図面を描いたのは佐伯門を入ったところにある予備駐車場です。テニスコートとしても使える設計でした。これなどはなんの変哲もない舗装された広場ですが、でも作る喜びはありました。覆屋の西側に作った案内広場も苦勞した思い出です。頭塔の復原整備も発掘調査と併せて心に刻まれています。

庭園の実測では東大寺知足院、長崎県五島の石田城庭園、滋賀県の庭園群などが強い印象に残っています。庭園の実測は落葉樹が葉を落とした冬から春先が見通しよく、この時期におこなうのが常道です。しかし、この時期はまた花粉症の季節でもありました。庭園はいわば花粉の巣窟ですから、ひどい花粉症の私は鼻水を垂らし泣きながら(?)実測したものです。

写真測量では桂離宮書院、平泉観自在王院や沖縄識名園などの庭園石組、薬師寺の薬師三尊像、春日大社の鼈太鼓、奈良井宿などの伝建地区町並、沖縄座喜味城石垣などを実測しながら長い時間をかけて間近に見るといふ貴重な経験もしました。

奈文研へ来て35年が経ちました。生来粗忽な私は失敗もあり、先輩や同僚に助けられたこともありました。皆様に篤く御礼申し上げます。

(文化遺産部長 高瀬 要一)

趣味と実益を兼ねて結構ですなあ

“趣味と実益を兼ねて結構でんなあ！”発掘調査が仕事だと言うと、人から言われることがあった。そんな時は“仕事となると苦勞も多く大変ですよ”と答えていた。これで給料をもらっている身としてはまさか“楽しいですよ！”とは言えない。本当のことを言うと、発掘調査は肉体的にはシンドイ面はあるが、精神的には楽しい仕事でした。

初めて発掘調査を経験した平城ニュータウン予定地における奈良山瓦窯の分布調査、当時の奈文研では遺物として取り扱わなかった近世の赤膚焼のカケラを嬉々として拾い集めた平城宮内の現状変更現場、

